

ミステリ読書案内

2023. 6. 23 発行元

第490号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

中・高校生にお薦めの本その24

中学生、高校生にお薦めするミステリ本の紹介の24回目。毎回の本を選ぶか迷う。手元に本が残っていないものが多いので、細部を思い出せないのだ。『学園ミステリ』を選べば無難かな?とったり…。

中学校での「職場体験学習」

私が中学校の教員をしていたころに力を入れたのは「職場体験学習」。昭和60年頃から始めたので、県内でも最も早い取り組みだったと思う。その後文科省も教育課程に位置づけるようになったので全国に広まった。中学校時代に実際の体験を積むことは必要なことだと思う。私は中学卒業後の進路決定に少しでも役に立ってくれば良いと考えている。子どもたちの日常生活では、将来の生き方や仕事・職業、

人生の目標…を具体的に考えるには「体験」が足りないと思っている。理科の実験でも、おもりを紐に結び付ける作業に時間を取られるようでは…ととてもとても。どんな仕事でも実際にやってみることが重要。

読書も人生を体験するひとつの方法。別に「ミステリ」に限定するつもりもないので、多くの本を読んでもほしい。いろいろな生き方や考え方があることを知るの大切なこと。物事はスムーズに行くとは限らない。困難に出会ったときに柔軟に思考でき、実行できる力を…。

似鳥鶏「さよならの次にくる」

ここで取り上げているのは『卒業式編』の方。この後に続編として『新学期編』がある。2009年創元推理文庫。

某市立高校に通う葉山くんが「僕」で主人公。第一話の『あの日の蜘蛛男』は小学校時代の出来事を思い出す話。図入りで説明。第二話の『中山コンプレックス』は、近くの愛心学園吹奏楽部の出来事。葉山くんの初恋の人である渡会千尋に掛けられた疑惑を晴らすために奔走する話。第三話の『猫に与えるべからず』は庭園に棲む猫のジャックの話。第四話の『卒業したらもういない』は、探偵役を務める先輩の伊神さんの卒業式の話。日常の謎を土台にしたコミカルな学園ミステリ。

倉知 淳 「占い師はお昼寝中」

1996年東京創元社クライム・クラブ。『創元推理』に連載したものに書下ろし作品を加えた単行本。渋谷・道玄坂で靈感占い所を開いている辰寅が探偵役を勤める。伸び放題の髪に無精髭。白いハチマキで暇さえあれば寝ている変わり者。それを支えるのが姪っ子の美衣子。大学生で好奇心旺盛でワトソン役を勤める。基本はアームチェア・ディテクティブ。話を聞いて推理する。設定にも関わらず、靈感などを頼ることもなく合理的な謎解きを展開していくのが見事。

第一作の『三度狐』はゴルフクラブと本が消える出来事を扱っている。辰寅がその家庭の状況をよくよく聞き出して下した結論とは…。6話収録。

我孫子武丸「人形はこたつで推理する」

1990年角川書店。人形が探偵という奇抜な設定。コミック版も出ている。名探偵は腹話術の人形の鞠小路鞠夫。それを動かしているのは天才腹話術士の朝永嘉夫。朝永が名探偵なのかというそうではない。名探偵は腹話術をしている時の人形としてしか現れない。シリーズ化されていて、本書の他に二冊出ている。本書には四話が収録されている。

第一話は表題作の『人形はこたつで推理する』。めぐみ幼稚園のクリスマス会に腹話術士が招待された。事後に私(妹尾睦月)がお礼を届けに行った時に、園で飼っていたウサギが死んだことを話すと、たちまちに事の真相を解き明かしてくれた。

石持浅海「フライ・バイ・ワイヤ」

2012年に東京創元社から出た本。2050年頃を想定した近未来学園ミステリ。石持浅海はこのような特殊な設定をした中で論理を組み立てるとい形式を得意にしている。帯にはアシモフの『ロボット三原則』が書かれている。高校の中にアバター形式のロボットが入ってくる実験の途中で発生した事件を扱う。

主人公はさいたま工科大学附属高校2年生の宮野隆也。将来エンジニアを目指し、選抜コースの学級委員長をしている。その学級にIMMID-28というロボットが転校生としてやってくる。完全自立型ロボットではなく、健康を概して病院に入院している一ノ瀬梨香という生徒の意志による遠隔操作で動く形式だという。研究開発中の実験とのこと。周りの生徒たちはロボットとして対応すればよいのか人間として対応すればよいのか戸惑ってしまう。徐々に慣れていくのだが、ある時ひとりの女子生徒が撲殺される事件が発生。ロボット絡みのようなのだ。宮野君は「どうして起きたのか」を考え…。